

今月初旬、本市の姉妹都市であるドイツ・ハノーバー市を訪問した際、公共交通について非常に興味深い取組がなされていたため、紹介する。

【ドイツ公共交通に関する基礎情報】 ドイツの公共交通は、旧国鉄であるドイツ鉄道(民営化されているが、株式は政府が100%保有)のほか、民間や公共団体が所有するものなど、多数の事業者が混在しているが、各州内においては、法人格を持った運輸連合(ハノーバー市ではGVH)がエリア内における輸送計画策定や交通事業者への輸送サービス発注、運賃回収・分配等を行っている(実施内容は地域差あり)。

なお、連邦政府は各州にまとまった規模の財源を支給しており、各州は近距離鉄道(都市鉄道や地方鉄道)の管轄・財政責任を担うとともに、都市交通全般の計画策定、運営及び資金調達に関する責任も担っている。

【取組内容】

月額49ユーロの公共交通サブスクリプション

本年5月1日から、月額49ユーロ(11月13日現在、約7,900円)で、ドイツ国内の鉄道(私鉄含む。特急等は除く。)や路線バス、地下鉄、路面電車等の公共交通機関が乗り放題となる「Deutschland-Ticket」が導入された。導入期間は2年間で予定。



Deutschland-Ticket
(ドイツチケット)



改札のない信用乗車制度

ドイツの鉄道では、乗車する際の改札機は無く、車内検札官による抜打ちチェック(最低でも60ユーロの罰金)が行われている。これにより設備投資の負担軽減が図られ、改札での混雑もない。



地下鉄のホームの様子

ハノーバー市の取組

ハノーバー交通局(GVH)管内に約6,100台の駐車スペース(駅や停留所付近に約70所)があり、公共交通利用者は無料で車や二輪車を駐車し、バスや電車に乗り換えることができる。また、市街地における自転車専用レーンの区分も明確である。

